

天声人語

陸上男子100㍍で10秒の壁を破った東洋大の桐生祥秀さん（21）は、子どもの頃から俊足で鳴らした。付いたあだ名は「ジエット桐生」。桐生と氣流をかけた愛称だ▼だが小学校の徒競走では2番だったこともある。所属したサッカーチームでは意外にもキーパーだった。陸上に打ち込んだのは中学から。進学した高校は100㍍の直線がどれないほど練習場が狭かったが、3年生の春に10秒01をたたき出す。歴代2位の記録で一躍脚光を浴びた▼歴代1位は伊東浩司さんが1998年に出した10秒00。優れたスプリンターたちが挑んだが、越えられそうで越えられない。10秒の壁が日本陸上界に立ちはだかった▼走法理論に詳しい深代千之・東京大教授（62）によると、かつて日本は「ロケットスタート」の国として知られた。加速、等速、減速とされた▼理論上、脚力は体格だけには左右されない。問題はアクセル役の筋肉とブレーキ役の筋肉をどう使うか。「腰のキレ」次第では日本選手も世界に伍していく。それがあの壁」と言われた記録があった。中距離の1㌔（約1600㍍）走の「4分の壁」だ。永遠に破れないと評されたが、54年に英國選手によつてひとたび破られるや、次々と20人以上が続いた。今回、切つたように9秒台が相次ぐか。百々堰を日本陸上界で10秒の壁が崩れた。

花を

2017・9・10